

(公社) 日本地すべり学会関東支部 令和元年度第2回現地検討会 開催報告 — 富士川付近の第三紀層地すべり —

1. 実施概要

関東支部では「実物を現場でじっくり見て・歩いて・さわってみる」ことをテーマに年2回の現地検討会を実施しています。今回は、山梨県峡南林務環境事務所のご協力のもと、「富士川付近の第三紀層地すべり」を学ぶ現地検討会を行いました。

- (1) 開催日：令和元年 11 月 25 日 (月)
- (2) 開催場所：山梨県南巨摩郡身延町手打沢地区
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：山梨県峡南林務環境事務所
- (5) 講師：天野 一男 (茨城大学名誉教授)
小沢 知己 (山梨県峡南林務環境事務所)
- (6) 参加人数：9 名 (学会員 6 名, 非会員 3 名 (うち学生 2 名))



写真-1 事務所での概要説明

2. 現地検討会の内容

手打沢地すべりは山梨県南西部を流れる富士川に面した斜面に位置しており、その下方には国道 52 号線が通っています。平成 16 年 10 月には台風がもたらした豪雨により大きく活動し、流出した土砂により国道がせき止められる事態となりました。その後、集水井工、アンカー工などの対策が施工されたことで動きが鎮静化し、現在は対策工の点検作業が定期的に行われています。

検討会では事務所の会議室において茨城大学名誉教授の天野氏より富士川周辺の地質の成り立ちについてご教授いただき、富士川周辺の地質構造がどのように形成されたのか、について学びました。その後、峡南林務環境事務所の小沢氏より、山梨県の治山事業、および手打沢地すべりが活動した当時の状況やその後の対策についてご説明いただきました。

午後は地すべり地の近隣に位置する不整合露頭を見学し、このような地質構造に至った経緯などについてご教授いただきました。その後手打沢地すべりに移動したうえで、主要な対策工である集水井工やアンカー工について見学しました。特に集水井工では全方位カメラにより内部の様子を観察するとともに、点検方法などについての意見が交わされました。



写真-2 手打沢不整合露頭の調査状況

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した現地検討会を実施していく予定です。現地検討会の開催地などにご希望がございましたら、担当幹事までご意見をお寄せください。本現地検討会の開催にあたり、山梨県峡南林務環境事務所の関係者各位には事前の準備や当日の説明にあたり大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。



写真-3 参加者集合写真 (手打沢地すべり地内)

(関東支部幹事 齊藤雅志)